

宝島から得られたトカラ列島初記録および北限記録のシズクキカイウツボ

仲宗根和哉¹・鷹野晶敏¹・三宅遥香²

Author & Article Info

¹ (国頭村)

KN: kzy121908@gmail.com (corresponding author)

AT: Jararaca4714@gmail.com

²琉球大学理学部海洋自然学科（西原町）

ambassis21@gmail.com

Received 13 December 2025

Revised 02 January 2026

Accepted 04 January 2026

Published 05 January 2026

DOI 10.34583/ichthy.63.0_1

Kazuya Nakasone, Akitoshi Takano and Haruka Miyake. 2026. *Uropterygius marmoratus* (Muraenidae) from Takara-jima island, Japan: first record from the Tokara Islands and the northernmost record for the species. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 63: 1–3.

Abstract

Three specimens (584.1–680.6 mm total length) of an Indo-Pacific species *Uropterygius marmoratus* (Lacepède, 1803) (Muraenidae) were collected from Takara-jima island, Tokara Islands (central and northern parts of the Ryukyu Archipelago), Japan. In Japan, *U. marmoratus* has been recorded only from the Amami, Kerama, and Yaeyama islands (southern and central parts of the Ryukyu Archipelago). Thus, these specimens, described here in detail, represent the first record from the Tokara Islands and the northernmost record of the species.

ウツボ科アミキカイウツボ属 *Uropterygius* Rüppell, 1838 のシズクキカイウツボ *U. marmoratus* (Lacepède, 1803) は、八重山諸島の西表島から得られた 1 標本に基づき日本初記録として報告された (McCosker et al., 1984). その後、国内から本種は奄美群島の奄美大島、慶良間諸島の渡嘉敷島、八重山諸島の石垣島と与那国島から標本に基づき記録されている (吉郷ほか, 2001; 田中ほか, 2020; 橋本・本村, 2021; 古橋ほか, 2024). また、八重山諸島の石垣島と西表島からはそれぞれ 2 標本が近年記録されている (是枝・本村, 2023; 是枝ほか, 2025).

2024 年 6 月にトカラ列島宝島から 3 個体のシズクキカイウツボが採集された。上記の他に本種の標本に基づく国内からの記録は知られていないため、宝島から得られた標本はトカラ列島初記録となる。これまでの本種の分布の北

限は奄美群島の奄美大島であり (橋本・本村, 2021), 3 標本は本種の分布北限を更新する記録となる。また、今回得られた標本は生息環境がこれまでの記録と異なっており、1 標本からは卵が確認されたため、本種の生態情報もここに報告する。

材料と方法

計測方法は橋本・本村 (2021) にしたがった。全長と頭長は必要に応じてそれぞれ TL と HL と表記した。体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。頭部感覚管孔の観察には双眼実体顕微鏡を用い、各名称は日比野・木村 (2016) に準拠した。脊椎骨数の計数には、軟 X 線写真を用いた。卵を保持していた個体については電子天秤を用い重量も計測した。生鮮時の体色は固定前に撮影された標本のカラー写真に基づく。本報告に用いた標本は琉球大学理学部小枝研究室 (University of the Ryukyus Ichthyological Laboratory: URIL) に保管されている。

Uropterygius marmoratus (Lacepède, 1803)

シズクキカイウツボ

(Figs. 1, 2; Table 1)

標本 3 個体 : URIL 01233, 全長 680.6 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村宝島 大間泊, 水深 0.1 m, 2024 年 6 月 10 日 20 時頃, タモ網, 仲宗根和哉・鷹野晶敏; URIL 01234, 全長 584.1 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村宝島 大間泊, 水深 0.1 m, タモ網, 2024 年 6 月 10 日 20 時頃, 仲宗根和哉・鷹野晶敏; URIL 01235, 全長 674.8 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村宝島 大間泊, 水深 0.1 m, タモ網, 2024 年 6 月 12 日 21 時頃, 仲宗根和哉・鷹野晶敏。

記載 計数および各体部計測値の全長と頭長に対する割合を Table 1 に示す。体は前後方向に長く、やや側扁する。体表には小さく弱い皺をもつ。体部は直線的で、尾端部はやや尖るが先端は円みを帯びる。肛門は体の中央付近に位置する。眼上に欠刻はない。吻は円みを帯びる。前鼻孔は

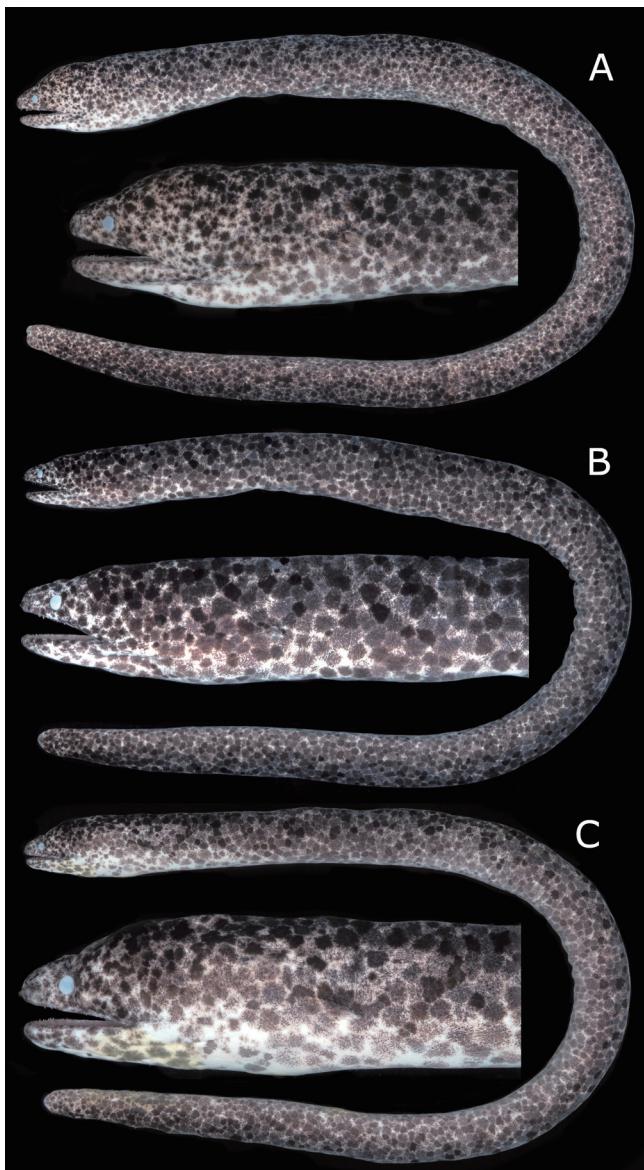


Fig. 1. *Uropterygius marmoratus* from Takara-jima island, Tokara Islands, Japan (A: URIL 01233, 680.6 mm TL; B: URIL 01234, 584.1 mm TL; C: URIL 01235, 674.8 mm TL).

短い管状で、吻部の前方向 1/3 付近に位置する。後鼻孔は管状で、開口部は眼の中央直上に位置する。眼は円形で小さく、口裂の中央直上付近に位置する。口裂は大きく直線的で、口は湾曲せず完全に閉じる。鰓孔は前後方向に長い橋円形で小さく、鰓孔部での体高の中点よりやや腹側に位置する。歯は縁の滑らかな円錐歯で先端が尖り、僅かに後方へ湾曲する。主上顎骨歯は円錐状で 2 または 3 列 (URIL 01233 の右側前方のみ部分的に 1 列)。外側の歯は小さくやや密に並び、内側の歯は大きく外側の歯ほど密ではない。外側と内側の中間の歯は内側の歯よりやや小さく、比較的低密度で後方にかけて多くなる。前上顎骨板中央の最後部の歯は顕著に長い。鋤骨歯は 1 列、主上顎骨の内側歯よりやや小さく、前方が 2 列 (一部は 3 列) で最後部では 1 列となる。垂直鱗は尾端部に限られる。頭部感覺管孔の数は、眼下感覺管孔 (supraorbital pores) が 1 + 2 (吻端に

1 個、前鼻孔 - 後鼻孔間に 2 個), 眼下感覺管孔 (infraorbital pores) が前鼻孔直後から口裂後端付近にかけて 4 個 (URIL 01233 の右体側と URIL 01235 の左体側では 5 個であり、それぞれ、前鼻孔直後に 2 個が隣り合って開口、前鼻孔と眼の中間付近に 2 個隣接して開口する), 下顎感覺管孔 (mandible pores) は下顎先端から口裂後端直前付近にかけて緩い弧状に 6 個、上側頭感覺管孔 (supratemporal pore) は口裂後端と鰓孔との中間の体高の中点やや上部に 1 個。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 一体の地色は淡い黄みの白色で、黒から暗い黄みの茶褐色、および灰色の輪郭が不明瞭な眼径大の小斑が全身に密在する。腹面にかけて斑は少なくなり、頭部と尾端は斑がやや小さい。瞳孔は黒色、虹彩は赤みがかった茶褐色であったが、冷凍保存したことにより角膜などが白濁し標本写真からは観察できなかった。

分布 インド・太平洋に分布する (McCosker et al., 1984; 波戸岡, 2013)。国内においては奄美群島 (奄美大島), 慶良間諸島 (渡嘉敷島), および八重山諸島 (石垣島・西表島・与那国島) から記録されていた (McCosker et al., 1984; 吉郷ほか, 2001; 波戸岡, 2013; 田中ほか, 2020; 橋本ほか, 2021; 是枝・本村, 2023; 古橋ほか, 2024; 是枝ほか, 2025)。本研究によって新たにトカラ列島の宝島から記録された。

採集地の環境 3 標本は最満潮の約 2 時間前の夜間にサンゴ礁域の水深 0.1 m ほどから採集された。波打ち際の転石等の無い、岩上や小規模なタイドプールで活動しており、ほとんど陸上に出て活動する個体も観察された。また、周辺にはアセウツボ *Gymnothorax pictus* (Ahl, 1789) が複数み

Table 1. Counts and measurements of *Uropterygius marmoratus* from Takara-jima island, Tokara Islands, Japan.

	URIL 01233	URIL 01234	URIL 01235
Total length (TL; mm)	680.6	584.1	674.8
Counts			
Total vertebrae	135	132	132
Measurements			
As % of TL			
Pre-anal length	44.2	42.5	43.0
Tail length	55.8	57.5	57.0
Trunk length	34.3	32.8	32.8
Body depth at mid anus	3.7	4.0	3.9
Body width at mid anus	2.5	2.8	2.9
Body depth at gill opening	4.9	4.2	3.7
Body width at gill opening	2.5	2.1	2.6
Head length (HL)	10.4	9.0	9.0
As % of HL			
Snout length	12.1	14.3	13.3
Eye diameter	4.5	5.9	5.4
Upper-jaw length	38.6	35.9	37.4
Lower-jaw length	35.7	34.2	38.4
Interorbital width	14.2	12.0	13.3
Gill-opening length	5.5	6.9	10.8



Fig. 2. Egg mass of *Uropterygius marmoratus*, URIL 01234, 584.1 mm TL.

られた。

備考 記載標本は背鰭と臀鰭がいずれも尾端付近に限られること、頭部感覺管孔が後鼻孔周辺には位置しないこと、肛門が体の中央付近にあること、口裂中央付近に眼が位置すること、鰓孔が体高の中央部よりやや腹方にあること、主上顎骨歯が3列であること、および脊椎骨数が132から135であることが波戸岡（2013）の示したシズクキカイウツボ *Uropterygius marmoratus* の特徴に一致したことから本種に同定された。なお、記載標本は眼径が頭長の4.5–5.9%であり、橋本・本村（2021）と是枝・本村（2023）が示した眼径の頭長比（6.1–7.8%）と比較して小さい値を示したが、本研究では種内変異と判断した。

本種はこれまで潮間帯の礫中や波当たりの弱い波食窪内の堆積したサンゴ片の間隙中、サンゴ礁の内側の砂底域転石下などの基質間隙環境で確認されており、これらは本種が好む環境である可能性が示唆されている（橋本・本村、2021；是枝・本村、2023；是枝ほか、2025）。一方で記載標本は、転石等がないサンゴ礁域のやや波当たりの強い波打ち際から採集され、これまでに知られる本種の生息環境とは異なっている。採集を行った2024年6月10日と12日には、記載標本を含めて本種5個体が同様の環境で活動しており、2025年6月にも同地において同様の環境で活動する本種1個体が確認された。今回の宝島での観察例は夜間であることから、索餌などに伴いこれまでに知られていた生息環境とは異なる環境で活動していた可能性も考えられる。本研究ではシズクキカイウツボが少なくとも6月の夜間の宝島においては、礫などが乏しい環境も利用していることが確認された。

記載標本の内、URIL 01234 は腹部が比較的膨らんでおり、切開したところ卵が確認された（Fig. 2）。卵は薄い杏色から薄橙色で重量は 16.73 g、Gonado somatic index (GSI) にして 8.41% であった。

これまでに知られている国内のシズクキカイウツボの

記録は「分布」の項目で述べたとおりで、北限は奄美大島であった（橋本・本村、2021）。そのため宝島産の標本は本種の分布の北限を更新する記録となる。

謝 辞

本稿の執筆にあたり、標本作製、登録、計測・計数には琉球大学理学部の小枝圭太氏、佐藤真央氏にご協力いただいた。脊椎骨数の計数に際しては山平研究室の機材を使用させて頂いた。また、Ichthy 編集委員の中村潤平氏と匿名の査読者2名には改訂に有益なご指摘・ご助言を多く頂いた。ここに感謝の意を表する。

引用文献

- 古橋龍星・赤池貴大・是枝伶旺・橋本慎太郎・樋口聰文・金井聖弥・潮上太郎・中村亮太・清水直人・本村浩之. 2024. 与那国島から得られた魚類43種の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 47: 9–20.
- 橋本慎太郎・本村浩之. 2021. 奄美大島から得られた奄美群島初記録および北限記録のシズクキカイウツボ *Uropterygius marmoratus*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 1–3.
- 波戸岡清峰. 2013. ウツボ科, pp. 244–261, 1786–1792. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 泰野.
- 日比野友亮・木村清志. 2016. 琉球列島から得られた日本初記録のウミヘビ科魚類 *Phyllophichthus xenodontus* および *Muraenichthys sibogae*. 魚類学雑誌, 63: 135–142.
- 是枝伶旺・赤池貴大・金井聖弥・本村浩之. 2025. 西表島の潮間帶に堆積した死サンゴ片の間隙中から得られた魚類5種(条鰆綱: 新骨下綱). 沖縄生物学会誌, 63: 11–22.
- 是枝伶旺・本村浩之. 2023. 沖縄県初記録のコブキカイウツボとホシキカイウツボ、および潮間帯の礫中から得られるウツボ科魚類の記録. Fauna Ryukyuana, 66: 15–27.
- McCosker, J. E., K. Hatooka, K. Sasaki and J. T. Moyer. 1984. Japanese moray eels of the genus *Uropterygius*. Japanese Journal of Ichthyology, 31: 261–267.
- 田中翔大・下光利明・瀬能 宏・宮崎佑介. 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144種の追加記録. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), 49: 107–118.
- 吉郷英範・内藤順一・中村慎吾. 2001. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録. 比和科学博物館標本資料報告, 2: 119–168.